

第1回噴火湾ホタテガイ情報(2011年)

発行日：平成23年2月28日

函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場
胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。
<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>

図1. 噴火湾水深10mの水温分布(2/19-2/20)

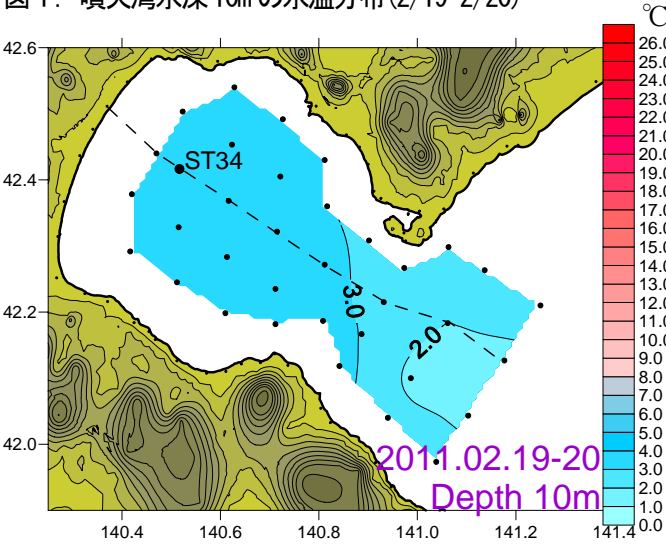


図2. 噴火湾断面の環境変量分布(2/19-2/20, 図1の点線部の断面図)

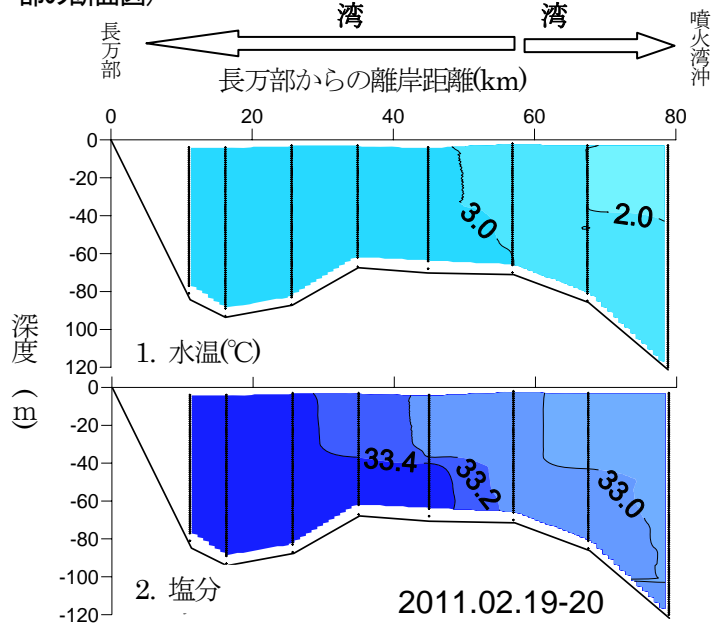


図3. 湾中央 St. 34 における環境の鉛直分布(2/19)

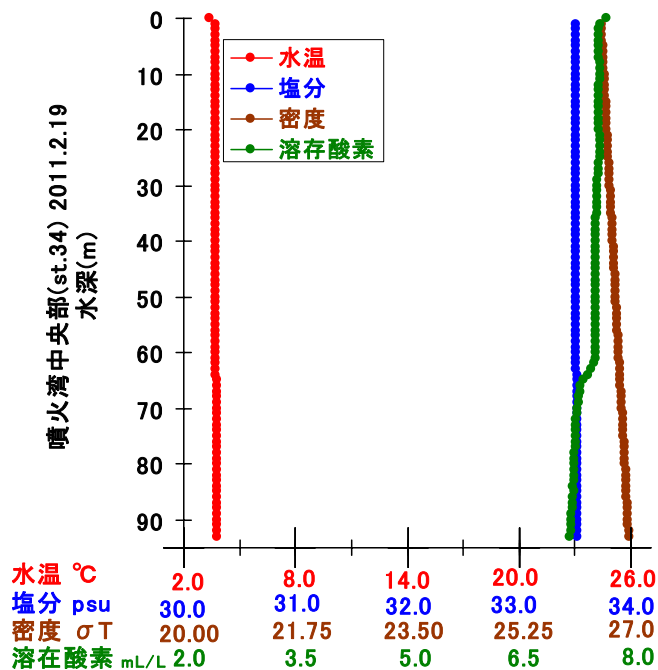
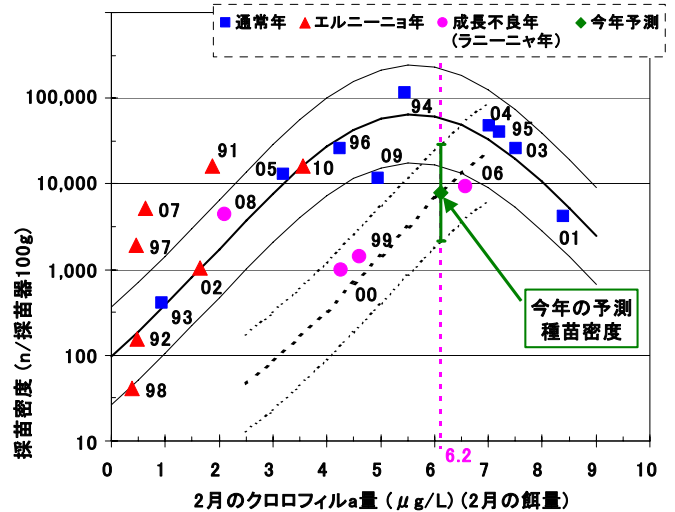


図4. 2月の餌の量と採苗密度の関係(今年の種苗密度の予報)



【概要】 2月19～20日に釧路水産試験場の北辰丸により噴火湾の環境調査を行いました。室蘭側の水深40m以浅に湾外の冷たく塩分濃度の低い海水が流入しています(図1, 2)。これは親潮と沿岸親潮が混合された水と考えられます。湾中央の水は表層から底層までほぼ均一で、水温3.7～3.8°C、塩分33.51～33.52で、溶存酸素も7.2mL/L以上(97%以上)で十分ある状態です(図3)。

過去の調査結果から、採苗密度(採苗器100g当たりの種苗数)には、①生殖巣発達前期の2月の餌の量が最も大きな影響を与えること、②成長不良年はやや採苗密度が下がることがわかっています。今年は成長不良年に当たりますが、2月の餌の量はクロロフィルa換算で6.2μg/Lと十分な餌量がありました。この餌の量は成長不良年だったが、十分な採苗ができた2006年と同レベルです(図4)。2月の環境からは、今年も良好な採苗が期待されます。しかし、採苗には採苗時期の海洋環境も影響します。また、今年は成長不良年ですし、近年のザラボヤ付着の影響も心配されます。例年どおり、万全の採苗体制が必要でしょう。

(連絡先： 北海道立総合研究機構 函館水産試験場 調査研究部 管理増殖グループ 馬場・渡野邊・金森)